

平成 26 年度薬物関連問題講演会 参加報告

千葉県学校薬剤師会
常任委員 大野定行

平成 26 年度薬物関連問題講演会が平成 27 年 3 月 19 日(木)に千葉市美浜区文化ホールにて開催されました。本講演会は千葉県精神保健福祉センター主催で行われており、本年度は「危険ドラッグについて考える～その危険性から支援まで～」のテーマで行われました。

「千葉県における危険ドラッグ対策の取組」について薬務課から報告があったのち、

【講演 1 : 「危険ドラッグの正体とその法規制について」

(独) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 依存性薬物研究室長 船田 正彦先生が講演されました。危険ドラッグによる有害作用についてマウスの実験より薬物依存性についての科学的データを示され、細胞毒性については脳神経細胞の死滅によるデータを示し、薬物によっては神経細胞の死滅は 20% から 70% と違いがあり、とても危険であるという報告でした。危険ドラッグは精神依存および細胞毒性が誘発され、重大な健康被害を発生させ、死に至らしめる事もあると述べられました。また、危険ドラッグについての法的規制の現状では、薬物検出・同定や薬物の中枢作用の確認などに時間がかかるため、指定薬物などへの規制までのタイムラグが生じてしまう。これを如何に短縮するかについて危険性を推測する簡易検出システムの開発に取り組んでいると話されました。最後に危険ドラッグの危険性について「依

存性、毒性強力」「何が含まれているか分からない」「死に至るケースもある」といった危険だという認識が必要で、手を出さないことが重要であると述べられました。

【講演 2 : 「「ダメ、ゼッタイ。」で終わらせない危険ドラッグ対策—実態から支援まで—】(独) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室長 嶋根 卓也先生が講演されました。先生の専門は疫学調査と薬物患者への支援が専門であり、日本における薬物乱用の推移と使用傾向について話されました。また、薬物依存患者への接し方として、開かれた質問を心がけるとして YES, NO で答えさせる質問より、HOW や WHY などの質問を心がけたほうがよいこと。望ましくない行動を罰するのではなく、望ましい行動に褒美を与える(褒めて伸ばす)こと。支援を継続させ、見守っていくこと。が大切であると述べられていました。

本年度 4 月から千葉県薬物乱用の防止に関する条例も施行されました。危険ドラッグに関する法整備も着々と進んではいますが、未だに薬物による犯罪は後を絶ちません。

我々、薬剤師は薬物の専門家としてこの問題に背を向けてはいけないと思います。また千葉県学校薬剤師会では、本年度の総会の後に船田正彦先生に危険ドラッグについての研修会を開催致します。多くの先生方の参加をお待ちしています。